

# ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2014年11月17日

## 仙台・荒町児童館「ハッピードール」

今回の荒町児童館での「ハッピードール」は、たったひとりの男子が、またもや個性的な作品をつくってくれました。ARTS for HOPE のワークショップだと参加してくれるというこの男の子は、とにかく《つくることが大好き》なのだとか。布地、モールを駆使してつくったあと、それを入れるフェルト3D的画期的バッグをこさえて、「凧だ」といって、作品にオブジェ付きの糸をつないで遊戯室を駆け回っておいた女の子たちも、布地など材料を持参している子。つくるもののラフスケッチをノートに描いてきた子。など、やる気満々な、うれしいワークショップのはじまりです。流行の「妖怪ウォッチ」のキャラクターを、マスコットのようにつくりあげる子どもたちも多く見られました。そして、女の子たちは、とにかく細かい作業が大好き！って感じで、大胆というよりは、とても繊細な作品づくりが印象的。布地を重ねて、お洒落なお守りができたり、ポーチも、蓋の開け閉めをボタンでするもの、マジックテープを使ったものなど、たくさん考えている様子が手に取るようです。

手芸用の綿とポンポンなどを使って、なんと、玄関に飾れそうなクリスマスオブジェをつくった女の子もいましたね。

「なにをつくっていいかわかんない」と、はじめ泣いていた子も、綿で雪だるまがつかれることを自分でみつけ、ボタンがたくさん付いた雪だるま2個制作。

布地をひっくり返して綿を入れる、玉結び、様々なステッチの仕方など、教わりながらどんどん出来るようになって。こういうところこそ、本当、これからたくさん役に立つような気がします。

